

肺がん検診ガイドライン公開フォーラム

肺がん検診の適切な方法と評価を確立するために

7月26日(水), 国際研究交流会館(国立がんセンター築地キャンパス内)において, 国立がんセンターがん予防・検診研究センター情報研究部主催で, 「肺がん検診ガイドライン公開フォーラム」が120名という多くの関係者の参加を得て開催された。

最初に, 平成17年度厚生労働省がん研究助成金「がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究」班・主任研究者で, 国立がんセンターがん予防・検診研究センターの祖父江友孝先生より, ご挨拶とガイドライン作成手順の説明があった。続いて, 金沢医科大学呼吸器外科教授の佐川元保先生から, 肺がん検診ガイドラインの解説があった。今回のガイドラインは, 肺がんの死亡率減少効果のある検診方法は何かを, エビデンスに基づいて評価したもので, 国家的ながん対策の指針となるアセスメントの結果を提示している。

推奨される方法は, 「非高危険群に対する胸部X線検査および高危険群に対する胸部X線検査と喀痰細胞診併用法による」肺がん検診である。ここで, 注意が必要になるのは, 死亡率減少効果が認められた報告^{*}が, 二重読影, 比較読影などを含む標準的な方法(「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針について」〔平成10年3月31日老健第64号〕等を参照)で行った場合に限定されるということである。また, 低線量CTについては, 今までのところ死亡率低下が確認されていない

め, 住民検診としてお勧めできないというものだった。

指定発言として, 岡山県健康づくり財団(結核予防会岡山県支部)附属病院長の西井研治先生から, ガイドラインの成果を高く評価するというコメントに続いて, いくつか, 提案がなされた。受診者の視点でわかりやすさを追求すること, 図表などを活用し, 現場の行政担当者も理解しやすくすること, 精度管理についても現場が使いやすいように踏み込んだ表現にすること。また, CT検診を実施している市町村に配慮した表現に変えてほしいという要望を挙げられた。

その後も, 現場の事例, 建設的な提案, 肺がん検診の歴史, ガイドライン作成の経緯や労働安全衛生法における胸部X線検査など, 広範囲に及んだ総合討論が行われた。これらの意見をふまえ, 肺がん検診ガイドラインが近く策定されることになっている。

^{*} 肺がん検診の効果を示した研究報告は, 適切な受診勧奨, 胸部X線写真の画像管理, 読影医の確保, 喀痰細胞診の精度管理, 精密検査受診勧奨・結果把握, 地域がん登録の活用等に積極的に取り組んでおり, 精度管理に対する努力が生んだ高い精度に他ならないと, ガイドラインでは高く評価している。

(文責 : 編集部)



受診者の視点を盛りこんでほしいと訴えかける西井先生